

三井物産エレクトロニクス株式会社

営業担当者と管理職が使うiPhoneとiPadを
IBM MaaS360で管理
きめ細かなポリシー設定と、
手厚いサポートが決め手に



お客様情報



三井物産エレクトロニクス株式会社

●本社所在地

〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1
芝パークビルA館10階
<http://www.mbel.co.jp/>

1995年に設立された三井物産株式会社100%出資の企業で、IoT/M2M向けソリューション、産業用組込PCソリューション、半導体・液晶製造設備、ハイテク関連機器の販売および保守サービスを提供している。三井物産グループの一員として、世界中の幅広い産業分野で事業展開を行っているグループの総合力とグローバルネットワークを生かしながら、IoT向けソリューションを中心に独自の強みを発揮できる分野で事業を進めている。

IoTソリューションや産業用組込PCソリューションを提供する三井物産エレクトロニクス株式会社（以下、三井物産エレクトロニクス）は営業担当者が使っていた携帯電話をiPhoneに切り替えた際に、デバイスのセキュアな管理と使い勝手の向上を図るためにモバイル管理ソリューション、IBM® MaaS360を導入しました。2年余りのIBM MaaS360運用経験の中で、三井物産エレクトロニクスでは、限られたユーザー数での運用でもコストパフォーマンスに優れていて、管理も容易な導入しやすい製品だと評価しています。

iPhoneへの切り替えに伴って、 社内システムへのセキュアなアクセスが課題に

三井物産エレクトロニクスは産業用組込PCとWi-Fiネットワークを扱うソリューション事業本部とフラット・パネル・ディスプレイ（FPD）用や半導体用製造装置と次世代用途の産業用装置を扱う装置・電材事業本部で事業に取り組んでいます。同社の代表取締役社長である小野塚 洋氏は「産業用組込PCソリューションでは、半導体製造装置、医療機器、アーケードゲーム機などに部品として組み込まれるPCや基板について、選定からカスタマイズ、周辺ソフトウェアやハードウェアの開発、量産、品質管理、保守までをワンストップでサポートします。またWi-Fiネットワークソリューションでは通信範囲・速度に優れた業務用Wi-Fiアンテナ専門メーカーの米国社製品を提供しています。さらに産業用装置では、中国、韓国、台湾のFPDメーカーや半導体メーカー向けに国内メーカーの各種装置を輸出しています。加えて、フィンランドやドイツのメーカーと業務提携し、自動車、新素材向けに日本初輸入の次世代高出力レーザー発振器による各種加工処理を実施中です。また日本のベンチャー企業製細胞分離装置も国内外の再生医療研究機関や製薬メーカーの研究開発部門に販売しています」と説明します。

従来、三井物産エレクトロニクスでは携帯電話100台ほどを営業担当者に支給して、使用してきましたが、スマートフォンが普及してきたことから、2013年夏頃にiPhoneへの切り替えの検討を始めました。その際、携帯電話は人事・総務室が管理していましたが、iPhoneは社内システムにアクセスすること、さらにはBYOD（個人所有デバイスの業務利用）の可能性があることから経理・IT室が統括することになりました。同社の業務部 経理・IT室 ITチームのシニアコーディネーターである塚本 昌則氏は「携帯電話を使っている時は、持ち出しPC用の通信デバイスを用意していました。iPhoneではテザリングが使える



事例概要

課題

- 社員が使用するiPhone、iPadでの社内メール、グループウェア、ファイル・サーバーへの安全なアクセスの実現

ソリューション

- IBM MaaS360

効果

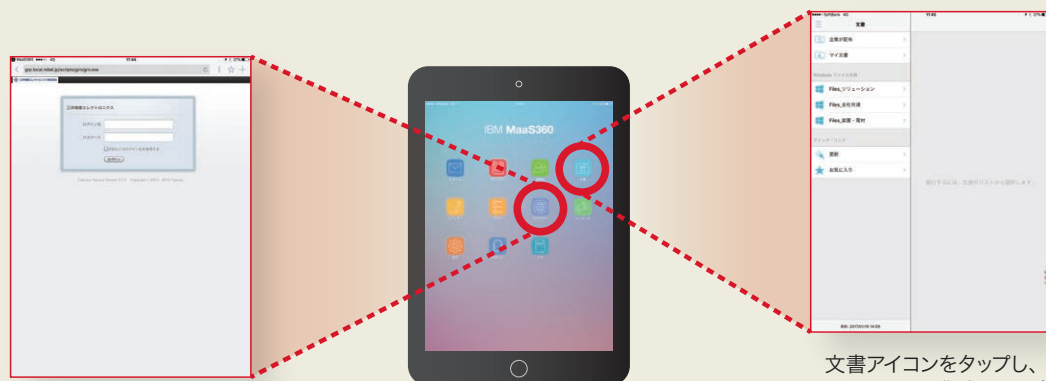
- メール、グループウェア、ファイル・サーバーへの安全なアクセスによる業務効率の向上
- デバイス紛失時の端末からのデータ漏えい防止とセキュリティの確保
- IBM MaaS360ユーザーのセキュリティ意識の向上

るので、通信デバイスが不要になり、その分コストを削減できると考えました。iPhoneで社内システムにアクセスできるのは大きなメリットですが、どんな時もデータを外部に漏えいさせず、セキュリティーを確保して使えるようにすることが大きな課題でした」と語ります。

日本語対応、サポートに対するIBMへの信頼からIBM MaaS360を選定、導入

そこで三井物産エレクトロニクスでは、MDM(モバイル・デバイス管理)製品を導入することにして、細かくポリシー設定ができること、メールや社内のブラウザベースのアプリケーションに接続できることを要件に、通信事業者のサービスよりも高度な機能を持つ製品を選び、導入の検討に入りました。最初に候補に挙げたのは海外ベンダーの製品でしたが、管理コンソールが英語で、その段階では日本語対応がなされていませんでした。実際の運用が始まると、管理コンソールを頻繁に使うようになるので、日本語対応を重視し、候補から外しました。次に国産ベンダーの3製品を比較、トライアルを実施しましたが、ポリシーの設定項目が少なかったり、管理コンソールの出来具合がよくないなどの問題があり、採用にいたりませんでした。そうした中で知ったのがIBM MaaS360でした。同社の業務部 経理・IT室 ITチーム 糸澤 聡氏は「偶然、IBMがファイバーリンク・コミュニケーションズを買収して、MaaS360を提供するというニュースを聞いたのです。グローバルで展開されているIBMに対する安心感から、2014年夏頃、トライアルで試してみようということになりました」と語ります。

当時、IBM MaaS360の日本語版がリリースされたばかりで、言葉がこなれていない部分はありましたが、導入に向けてのIBMの技術的なサポートも手厚く、ポリシーも非常に細かく設定できることから、IBM MaaS360に決定しました。



ブラウザアイコンをタップし、イントラネットにログイン

文書アイコンをタップし、IBM MaaS360業務エリア内で文書を管理

“事業規模や課題の重要度などとの関係でセキュリティーの予算を考えていかなければいけません、IBM MaaS360は規模とコストとのバランスから見ても、適切だと思います”



代表取締役社長
小野塚 洋氏

“iPhoneで社内システムにアクセスできるのは大きなメリットですが、どんな時もデータを外部に漏えいさせず、セキュリティーを確保して使えるようにすることが大きな課題でした”



業務部 経理・IT室
ITチーム
シニアコーディネーター
塚本 昌則氏

「IBMがファイバーリンク・コミュニケーションズを買収して、IBM MaaS360に力を入れて展開するというのが導入の決め手になりました。IBMが直接扱うので、日本語化もきちんと行われるだろうし、サポートもしっかり行われるだろうと考えました」(塚本氏)。

こうして、IBM MaaS360採用を決めた三井物産エレクトロニクスでは2014年秋、ITチームで先行検証の後、iPhoneへの切り替えとセットで、約100ユーザー分のIBM MaaS360を導入しました。導入にあたってはIBMの技術者が同社を訪れて、アプリのダウンロードや設定を支援、問題点は米国の技術者と電話会議で直接やり取りし、解決しました。

セキュリティーと利便性を両立して iPhoneとiPadが利用可能に

2014年末、三井物産エレクトロニクスは半導体・電子部品事業部門を譲渡、現在の2事業本部体制になりました。その結果、iPhoneを持つ営業担当者は3分の2ほどになりましたが、管理職上位層にiPadを支給したため、導入当時と同じ100ユーザーほどがIBM MaaS360を利用しています。また管理部門にはiPhoneを支給しなかったため、個人所有のスマートフォンにIBM MaaS360を導入して、BYODで使っているユーザーもいます。

IBM MaaS360を利用することで、ユーザーはメール、グループウェア、ファイル・サーバーに安全にアクセスできるようになり、セキュリティーと利便性を両立させて、業務効率が向上しました。またiPhoneを紛失した際でも、ITチームが直感的な操作で簡単にデータの全削除や一部削除ができるので、非常に使いやすいと高い評価を得ています。

また、IBM MaaS360を2年余り使う中で、ユーザーのセキュリティー意識も高まってきていることも大きな成果です。「iPad はIBM MaaS360導入前から使っていましたが、付属のメーラーでメールを受信していて、端末にデータが残ってしまう状態でした。IBM MaaS360で、紛失時を想定してデータを端末に残さないようにしていますが、データを残さないのが当たり前だという意識がユーザーに浸透、定着してきています」(糸澤氏)。

親会社の三井物産では情報セキュリティー方針を定め、関係会社を含む連結グローバル・グループ・ベースで情報資産に対する適切な管理を行うことを開示しています。「セキュリティーで大切なのは技術のサポートだけではなく社員に対する啓発活動です。ポイントは端末を紛失して他人にデータを見られることが大変なリスクをもたらすことを繰り返し教育していくこと、そしてセキュリティーを担保するツールや基盤をしっかり構築していくことです。その中で、事業規模や課題の重要度などとの関係でセキュリティーの予算を考えていかなければいけません、IBM MaaS360は規模とコストとのバランスから見ても、適切だと思います」(小野塚氏)。

「IBM MaaS360は360度全方向の機能を持っているのに、選定当時の国産パッケージと比べてもリーズナブルな価格で正直、驚いています。機能面で見ると、IBM MaaS360の半分ほどなのに価格は2—3倍する製品もあることを考えると、限られたユーザー数での導入も進めやすいと思います」(塚本氏)。

“IBM MaaS360で、紛失時を想定してデータを端末に残さないようにしていますが、データを残さないのが当たり前だという意識がユーザーに浸透、定着してきています”



業務部 経理・IT室
ITチーム
糸澤 聡氏

Windowsタブレットや社内SNSへの対応など 機能のさらなる拡張に期待

三井物産エレクトロニクスでは、産業装置ビジネスの知見と三井物産グループの総合力を活用したエンドユーザー向け各種IoT関連サービスの提供に力を注いでいます。「現在、フォークリフト安全運行管理システム『Forkers』、クラウドを利用した業務用車両管理システム、工場設備のリアルタイムデータを収集、保管するデータベース・ソフトウェア、産業用機器異常検知システム、農業向け環境データ・センシング・ソリューション、装置メーカーと海外工場のセキュアなリモートアクセスネットワーク、ゴミ箱センサーによる遠隔監視・業務効率化の実証実験等々、様々なIoT関連サービスの提供に取り組んでいます。中でも『Forkers』はIoT技術でフォークリフトの安全と稼働監視を提供するサービスで、2017年3月から試験販売を実施、本格展開をめざしています」(小野塚氏)。こうした事業展開の中で、モバイル・デバイスは業務の中でますます重要な役割を果たしていきます。三井物産エレクトロニクスでは、Windowsタブレットの採用や社内SNSの導入によるコミュニケーションの活性化、業務の効率化を進める方針で、IBM MaaS360に対する期待は大きく高まっています。



左から塚本氏、小野塚氏、糸澤氏



日本アイビーエム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

© Copyright IBM Japan, Ltd. 2017

All Rights Reserved

03-17 Printed in Japan

IBM、IBMロゴ、ibm.comおよびMaaS360は、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。

WindowsはMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

このカタログに掲載されている情報は2017年3月のものです。事前の予告なしに変更する場合があります。

本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は初掲載当時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。

事例は特定のお客様での事例であり、すべてのお客様について同様の効果を実現することが可能なわけではありません。

製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはIBMビジネスパートナーの営業担当員にご相談いただくか、以下のWebサイトをご覧ください。

ibm.com/security/jp